

2023年9月27日 「世界の注目を集めるインド」 インド躍進のパイオニア「グジャラート州」

インド側講演者 Himanshu 氏 講演 要約（日本語抄訳）

スライド:6 インドでビジネスを始めるのに最適な場所を評価するための重要な要因

インド市場への参入を検討している場合、よくある質問の1つは、工場やオフィスを設立するのに最適な場所はどの州なのかということです。その答えは、インフラストラクチャー、人材の確保状況、顧客やサプライヤーとの近さなど、さまざまな要因によって異なります。インド市場に参入する100社以上の企業をサポートしてきた私の経験に基づくと、グジャラート州は、インドでビジネスを始める際に検討すべき最有力候補の一つです。次のいくつかのスライドでは、グジャラート州がインド有数の投資先である理由を詳しく説明します。

スライド:7 グジャラート - 先駆的な州

主要な経済指標を考慮すると、グジャラート州がインドのトップ州に入ることがわかります。国内の主要都市だけでなく、ヨーロッパ、中東、アメリカへのアクセスも良好です。1,600キロメートルを超える海岸線は、中東とアフリカ市場の貿易拠点にもなっています。インドの港湾貨物のほぼ40%がグジャラート州で扱われています。

スライド:8 グジャラート州: 強力な製造業と産業エコシステム

製造業と産業エコシステムに目を向けると、グジャラート州に存在するすべての主要産業が見つかります。多くの大手自動車会社（スズキ、ホンダを含む）がグジャラート州に拠点を置いています。

スライド: 10 成長を促進する 10 のメガ プロジェクト

確立された産業エコシステムとは別に、いくつかの主要プロジェクトが州経済の成長を推進しています。

- ・ DMIC
- ・ ギフトシティ
- ・ ドレラ

スライド:11 グジャラート州: グリーン産業移行へのリーダー

グジャラート州が大きな影響を与えている他の分野は「グリーン経済」です。太陽光発電、風力発電などの伝統的な産業であっても、グリーン水素や電気自動車などの新興産業であっても、グジャラート州は州の政策や、国内外の投資を誘致するビジネスに優しい環境づくりの面で最前線に立っています。これらのビジネス機会については後続のスライドで説明します。

スライド:12 グジャラート州産業政策 2022

国の産業政策は、投資を誘致し、ビジネスに優しい環境を促進するために常に重要です。私の経験では、企業が海外展開を計画しているときに、中央政府や州政府が提供する投資奨励策の計算を怠り、その結果、投資収益率が低下したり、損益分岐点期間が長くなったりすることがよくあります。そして、これが進出するか否かの判定の重要なポイントとなります。グジャラート州の政策について具体的に言えば、投資規模と工場を設立する地域に基づいて投資優遇策を提供します。

スライド:15 ドレラ

ドレラ特別投資地域 (DSIR) は、州都アーメダバード地区に近く、920 km² 以上に広がるグリーンフィールド産業計画都市です。インド政府とグジャラート州が共同開発している新産業都市です。ドレラは戦略的地域に位置しており、デリー - ムンバイ産業大動脈プロジェクト (DMIC) などの貿易の玄関口とうまく接続されています。

スライド : 19

半導体は現代のデジタル経済の心臓部であり、2022年には5,750億ドル規模の産業となり、世界のエレクトロニクス産業やICT産業の基盤としての役割を果たすとともに、人工知能 (AI) などのさまざまな川下アプリケーションを可能にするなど、7兆ドルの世界経済活動を刺激しました。インドはすでにこの産業において非常に重要なプレーヤーであり、世界の半導体チップ設計活動のおよそ20%を占めているが、インドは半導体製造とバリューチェーン活動において、特に半導体製造と半導体・テストアウトソーシング (OSAT) のフットプリント (組立、テスト、パッケージング、または「ATP」と

も呼ばれる)を拡大することによって、チップ設計の強みを生かし、より大きなグローバルフットプリントを達成することを当然目指しています。「インドのナレンドラ・モディ首相が最近コメントしたように、"世界の半導体バリューチェーンにおいて、インドを重要なパートナーの一つとして確立することが我々の目標である"。2020年に150億ドルとされたインドの半導体市場は、2026年にはスライド 24 ~300億ドルの財政支援の内訳は、半導体・ディスプレイ部門に100億ドル、電子機器製造部門に70億ドル、関連部門(太陽電池、電気自動車、白物家電など)に130億ドルであります。640億ドル超に成長し、2030年にはさらに倍増して1100億ドルに達すると予想されており、その時点でインドは世界の半導体市場の少な

スライド 24 ~300億ドルの財政支援

その内訳は、半導体・ディスプレイ部門に100億ドル、電子機器製造部門に70億ドル、関連部門(太陽電池、電気自動車、白物家電など)に130億ドルであります。少なくとも10%のシェアを占めるとアナリストは予想しています。

スライド : 29 電気自動車 (EV)

インドは世界第4位の自動車市場であり、200万台規模の二輪車市場では世界第2位である。また、石油輸入に大きく依存する国でもあり、19年度の石油輸入額は1,120億米ドルに上る。インドの多くの都市では公害が憂慮すべきレベルに達しています。これらすべての要因を総合すると、インドにおけるEVの普及は強力なケースとなります。

スライド: 30

インドにおける EV（電気自動車）の普及率は 2018 年以降、年率 55% で増加しており、2030 年まで 49% の成長が見込まれている。特に電動 2 輪車（E2W）と電動 3 輪車（E3W）の分野で導入が進んでいます。

インド政府は、FAME、ACC バッテリーの生産連動インセンティブ、自動車および自動車部品の需要インセンティブなど、インドの EV セクターを奨励するために多くの制度を実施しています。

スライド: 44 ソーラー

インドの太陽光発電（PV）製造業界は飛躍的に成長しており、同部門への拡張や新規投資が頻繁に発表されています。インドの累積モジュール製造銘板容量は、2022 年 3 月の 18GW から 2023 年 3 月には 38GW へと 2 倍以上に増加しました。インドでは、今後 3 年間で 110 ギガワットのモジュール製造能力が稼働し、自給自足が可能になります。2～3 年後に自給自足が達成されれば、インドは他の世界市場への進出を拡大し、品質と価格の面で中国に代わる有力な選択肢として PV 製品を提供することに注力しなければならない。

スライド 49 グリーン水素

62GW 以上の太陽光発電と 42GW 以上の風力発電の設備容量を含む優れた再生可能エネルギー資源、水素とその派生製品の既存消費市場、グリーン水素ハブとして開発可能な適切な立地条件を考えると、インドはグリーン水素製造ハブとして台

頭するのに適した立場にあります。これにより、インドの生産者は、グリーン水素とグリーンアンモニアの平準化コストが最も低くなる。動車および自動車部品の需要インセンティブなど、インドの EV セクターを奨励するために多くの制度を実施しています。

スライド 24 ~300 億ドルの財政支援

その内訳は、半導体・ディスプレイ部門に 100 億ドル、電子機器製造部門に 70 億ドル、関連部門（太陽電池、電気自動車、白物家電など）に 130 億ドルであります。

以上